

『SDGs-1グランプリ』で取手市長賞を受賞

茨城南青年会議所主催（後援 取手市・守谷市・つくばみらい市）で『SDGs-1グランプリ』が6月29日に開催され、本校から高校2年生が1名参加、取手市長賞を受賞しました。

■内容

取手市内の高校生から、地域創生につながるSDGsのアイデアの募集があり、そちらに提案書を提出しました。そして、第一次審査を通過し、6月29日に取手市ウェルネスプラザで発表しました。

会場では、茨城青年会議所や行政、企業の方が聴いてくださり、評価してくださいました。その後、結果発表、表彰式が行われました。

■茨城南青年会議所（JC）の代表の方より

「石田君は素晴らしいプレゼンでした。発表者の中でもずば抜けていましたし、想いが伝わってきました。」というお言葉をいただきました。

■石田君は、中学時代より取手市を活性化させたいという夢を抱き、夢を語る会などで、取手市に対する熱い思いを語っていました。

そのような思いを今回は、【井野団地を使った取手の国際都市化の提案】というテーマで、取手市の活性化を図りたいという提案をプレゼンしました。

日頃から自分が抱いている思いを大事にして準備をしておく、チャンスが巡ってきた時に、自分の手でそのチャンスを掴みにいくことができるということを再確認しました。

■取手市長賞受賞の石田君のコメント

普段から考えていたことをこのような場で聞いていただけたことを嬉しく思います。今回は、夢を語る会でも取り上げていた集合団地の新しい活用法について発表しました。

また茨城南青年会議所の方とお話をさせていただく機会をいただいたことにより、今までの自分の考えをさらに具体化することができました。

いつかこのアイデアが実現し、若者が増え、元気溢れる取手市に発展できたら嬉しいです。





井野団地を使った取手の国際都市化の提案

江戸川学園取手高校2年 石田慎太郎

取手市の課題

- 若い人が少ない
- 古臭い集合団地が残っている
- 上野まで約40分で行けるという魅力が伝わっていない



解決策

- 首都圏に通う留学生と国際交流に興味のある学生を対象に集合住宅を格安の学生寮として提供する
- 学生たちに取手の利便性を実感・発信してもらう



効果

- 取手が留学生にとっての第二のふるさとになる
- 学生は大学卒業後も取手に住みたいと思うようになる
- 取手が日本を代表する国際都市になる

留学生に取手を選んでもらうためのアイデア

- SNSによる取手の魅力発信で家賃割引
- 地域を巻き込んだ若者主催のイベントの開催
- 通学費は取手市が半額負担

将来の展望

- 国際交流の盛んな大学を誘致

